

ふれる、
つたえる、
つなげる、
ひろげる。

天皇陛下御即位記念

第34回 国民文化祭・にいがた2019

第19回 全国障害者芸術・文化祭にいがた大会



障害のある人ない人が共につくる



文化ふつつ新潟!
Bunka Futtsu NIIGATA

みんなのコラボレーション『あしたにつながる絵』

2019年9月24(火)～9月29(日) 9:30～17:00 <入場無料>

新潟県民会館1階 展示コーナー (新潟市中央区一番堀通町3-13)

【ごあいさつ】 柏崎の新潟病院に入院する車いすの画家佐藤伸夫さん、知的障害のある兄恒夫さん、そして、伸夫さんと同じ病気の中学生の少年。この3人がコラボレーションした絵画が「明日」です。それに **ふれた** 長岡技術科学大学の学生や様々な人たちが、その共感や感情を多様な手法（マルチメディア）で **つたえ、つなげる** ことを目的に、絵と映像と音楽でコラボレーションを試みました。

展示作品の鑑賞やワークショップ、ミニコンサートと共に、障害のある人ない人が共に作り上げるダイバーシティ（多様性）における、大学生や子どもたちへの教育を **ひろげる** 取り組みに、ご参加頂ければ幸いです。

国立大学法人 長岡技術科学大学 マルチメディアシステムセンター 放送技術研究会 一同

【展示内容】 1) 長岡技術科学大学学生参加： こどものためのコラボレーションビデオ
「あしたにつながる絵」(教育映像作品：上映時間7分)

資料提供： 国立病院機構 新潟病院 佐藤伸夫美術館

映像提供： 高橋章「命をつむぐ絵画 佐藤伸夫の世界」、高橋育世「絵と音楽のワークショップ」

作成協力： 支援を必要としている子供の就労体験活動 ぶれじョブながおか

こどものための音楽の家ハルモニア 高橋バイオリン教室

2) 「あしたにつながる絵」登場の原画（佐藤伸夫）8点。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ①「楽しいひと時」2017。 | ②「旅の話」2018。 |
| ③「バラのアーチ」2018。 | ④「春の小川」2018。 |
| ⑤「チューリップ」2018。 | ⑥「ヒヤシンス」2018。 |
| ⑦「命」(いのち) 2017。 | ⑧「明日」(あす) 2017。 |



3) 佐藤伸夫 作品 「落日」1972。「遊動」1985。他。

4) 佐藤恒夫 作品 洋画、数点。 書「海」。 色紙、数十点。 他。

5) 参加コンセプト揭示物、「あしたにつながる絵」説明揭示物、画家紹介揭示物、画家画集展示、長岡技術科学大学のアシスティブ・テクノロジーおよび教育紹介、参加市民団体等の資料展示

6) ワークショップとミニコンサート

映像作品のコンセプトのひとつでもある「絵の中から音楽が出てくる」の会場での取組みとして、下記のワークショップとミニコンサートを開催します。

(1) こどもたち（児童向き）の絵と音楽のワークショップ：日曜日（9/29）午後

<1> 佐藤伸夫さんの絵を見る。 <2> 絵を選んでならべ、お話を作る。

<3> 絵とお話に合わせて音（音楽や自然の音など）をつくる。 <4> 発表（ビデオ撮影）

(2) つながるミニコンサート：土曜日（9/28）、日曜日（9/29）、ほか、会期中ときどき開催。

声楽、バイオリンなど、県内音楽家らによる多様なコラボレーション。



同時開催：新潟県障害者芸術文化祭受賞作品展 県民会館 ギャラリーB
障害のある人ない人が共につくる～えちごの大凧プロジェクト～ ギャラリーA

【つたえ つなげること】 **絵画「明日」** は、国立病院機構新潟病院に脊髄性筋萎縮症で入院する佐藤伸夫さん、知的障害のあるお兄様の恒夫さん、そして、伸夫さんと同じ病気の中学生の3人による作品です。この少年は通院の際、院内の佐藤伸夫美術館を訪れ、そこから交流が生まれたと聞いています。

「伸夫さんの絵を見た時に自分の想像の世界を表現していてすごいとおもいました。交流した時にぼくに質問した事を絵にしてくれたり、たん生日にぼくの未来を絵にさせていただいてありがとうございました。ぼくも好きな絵をかくことを楽しく続けていきたいです。」

これは彼が伸夫さんに宛てた手紙です。伸夫さんは「明日」におけるコラボレーションにより少年に つたえ、気持ちがつながったのです。このコラボレーション作品はわたし達にもつながり、さらに“それ”をひろげよと訴えかけてきます。“それ”とは何でしょう？“それ”は芸術や文化なのかとも思いました。でも“それ”が“なに”であるかは、僕ひとりではわかりませんでした。ですから、“それ”に突き動かされた感情を教育の領域において共有し、ふれてもらい、つたえ、つなぎ、ひろげることを試みました。

長岡技術科学大学の放送技術研究会はじめ、多くの方々が関与してくれた映像作品「あしたにつながる絵」は、この試みのひとつです。みんなが各自の専門性を活かして参加してくれることにより、試みは形となりました。つたえる、つなぐという行為は一方的な行為としては決して成り立ちません。それは正にコミュニケーション的な行為だと思います。**あしたにつながる絵** は、画家、音楽家、教員、工学部大学生、支援学校の生徒、そして、児童ら、一人ひとりがふれた“それ”を、どのようにして他者につなぎ、他者に伝えるかという行為をそれぞれの領域で懸命に模索し、コミュニケーションしようとしたみんなのコラボレーション作品です。

伸夫さんの絵画「明日」は **海** をイメージさせます。ですので、映像のナビゲーターは人魚としました。この人魚は、当時支援学校生であった女の子がひとつ下の中学生の女の子を想って作ってあげた何十体の指人形のひとつです。現在ふたりは、毎週土曜日の大学のパソコン教室に通ってきてくれています。パソコン教室に、お姉さんが作ってくれたものだと言手いっばいに持ってきて見せてくれた人形の中に、この人魚がいました。これは「あしたにつながる絵」の作成に取り掛かり、どのようにしたら子どもたちに喜んで観てもらえる作品になるかと考えていた僕たちにインスピレーションを与えてくれました。

“それ”は子どもたちの優しいコラボレーションの形で、**明日** にむかう伸夫さんと少年との交流（コラボレーションを手法としたコミュニケーション：つたえ つなげること）とも重なったのです。

作品の最後に作中の子どもたちは僕たちに問いかけます。「みなさんは伸夫さんの絵から、どんなことを“そうぞう”しますか？」と。“そうぞう”は想像であり創造であるかもしれません。そして人魚は泡にならずに「またね♪」と海に帰っていきます。海路と陸路、多様な文化とコミュニケーションが交差し融合するこの新潟の地。ここで開かれる『みんな』の文化の祭典で、これからどんなひろがりがあるのかワクワクしています。

長岡技術科学大学 大学院工学研究科 助教 永森 正仁

【画家の紹介：2018年度受賞・出品】

- ・ 柏崎文化協会「特別表彰」受賞 佐藤恒夫、佐藤伸夫
- ・ 第61回 柏崎市美術展覧会
佐藤伸夫
洋画部門「三つの海」委嘱出品
書道部門「はなさく」入選、日本画部門「つながる」出品
- 佐藤恒夫
日本画部門「話を聞いて」 柏崎日報美術振興賞
書道部門入選、日本画部門2点、洋画部門2点 出品

主催：第34回国民文化祭、第19回全国障害者芸術・文化祭新潟県実行委員会
〒950-8570 新潟市中央区新光町 4-1 新潟県県民生活・環境部文化振興課内
お問い合わせ：025-280-5987 公式HP <http://niigata-futtotsu.jp/>
協力：長岡技術科学大学 マルチメディアシステムセンター 放送技術研究会



 **長岡技術科学大学の取り組み** (大学HP <https://www.nagaokaut.ac.jp/> より)

SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標) は 2030 年へ向けた国際目標で、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。長岡技術科学大学は 2018 年に国連から SDGs のゴール 9 (産業と技術革新の基盤を作ろう) のハブ大学に任命されました。本学は持続可能な世界の実現に向け早くから積極的な取組を行っております。

